

## 石綿による 健康被害

石綿（せきめん・いしわた・アスベスト）は、天然の繊維性珪酸塩鉱物の総称で、軽く綿状の性質であるため様々な形に加工しやすく、断熱性、耐火性、電気絶縁性、耐酸性、耐アルカリ性、吸音や吸着性、引っ張る力に強い等の利点と共に、眼に見えないサイズで容易に飛散し肺に吸入されても石綿繊維は分解されずに、消化を試みた肺のリンパ球系の細胞が死滅するという欠点があります。

石綿は物質として安定し変化しにくく、強い発ガン性があるため、最初の石綿吸入からおおむね 40 年前後の潜伏期をへてから健康障害がおきることがあります。

石綿吸入曝露によって引き起こされる健康障害として悪性中皮腫、肺癌の悪性疾患、塵肺のひとつである石綿（アスベスト）肺、良性疾患である胸膜肥厚斑、良性石綿胸水（胸膜炎）及びびまん性胸膜肥厚があげられます。

最近マスコミにも取り上げられ話題になっている悪性中皮腫とは、胸膜や腹膜や心膜等の薄い膜に発生した悪性疾患で、「膜の癌」と考えられます。肺癌と比べて発症頻度は大変低いですが、年々発症者は増加傾向にあると言われています。症状としては胸水、腹水の貯留による息切れ、呼吸困難、胸痛、腹痛、腹部膨満感が出現します。この疾患の問題点としては、最初の石綿吸入からおおむね 40 年前後の潜伏期をへてから健康障害がおきること、早期発見が難しいこと、治療として外科治療、抗がん剤治療、放射線治療が行われているが現在のところ有効な治療法がないことが挙げられます。

石綿はその性質から様々な工業加工品に使用され、造船、自動車修理、内装建設業等では職業性曝露が重大な問題となっています。近年は石綿を取り扱った工場周辺の環境被害が問題となってきています。以前及び現在石綿を取り扱う職業であった方々には、早期発見のため一年に最低一回の胸部レントゲン、できれば胸部 CT による健康診断をお勧めいたします。

呼吸器科